

平成 24 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果【概要】

I 調査の概要

1 調査実施日

平成 24 年 4 月から 7 月末までの期間で実施

2 調査内容

(1) 調査対象

- ・小学校第5学年、特別支援学校小学部第5学年
- ・中学校第2学年、中等教育学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年

(2) 調査の方式

文部科学省が調査対象として抽出した学校における前述(1)の学年の全児童生徒を対象として全国的な抽出調査を行う。

(3) 調査事項

① 児童生徒に対する調査

- ・実技に関する調査

[小学校、中学校 8 種目]

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、

※持久走(男子 1500m 女子 1000m)、20m シヤトルラン、

50m 走、立ち幅とび、ボール投げ(小学生ソフトボール、中学生ハンドボール)

※小学生は 20m シヤトルランのみの実施

中学生は持久走か 20m シヤトルランのどちらかを選択して実施

- ・質問紙調査(運動習慣、生活習慣、食習慣等)

② 学校に対する調査

- ・質問紙調査(子どもの体力向上に係る学校の取組等)

3 調査学校数、児童生徒数

- ・調査学校数 約6千4百校(小学校:約4千2百校 中学校:約2千2百校)

【小学校調査】

	参加学校数(A)※	学校総数(B)	抽出率(A/B)
小学校	4, 237	22, 519	18. 8%

※うち特別支援学校(小学部)11 校を含む

【中学校調査】

	参加学校数(A)※	学校総数(B)	抽出率(A/B)
中学校・中等教育学校	2, 176	11, 807	18. 4%

※うち特別支援学校(中学部) 21 校を含む

- ・調査児童生徒数 約42万人

小学生:約 21 万人(男子:約 10.5 万人、女子:約 10.1 万人)

中学生:約 21 万人(男子:約 11.0 万人、女子:約 10.4 万人)

II 調査結果の概要

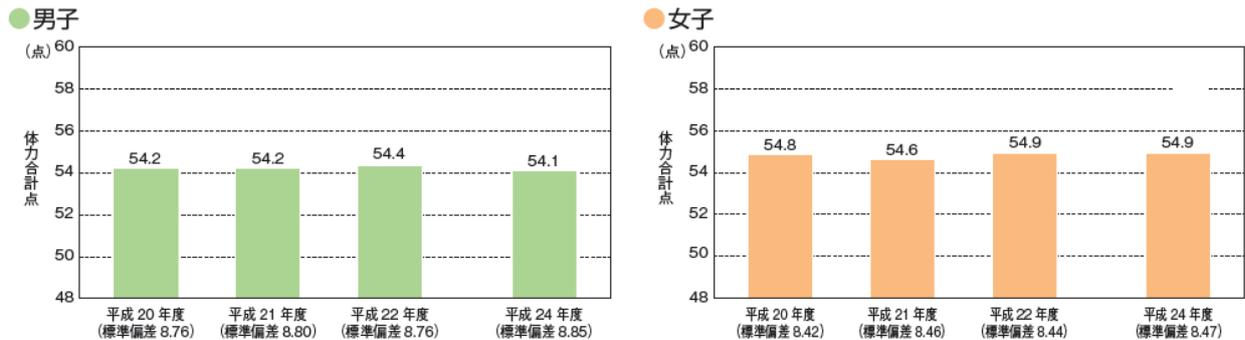
1 今年度の児童生徒の状況

(1) 体力

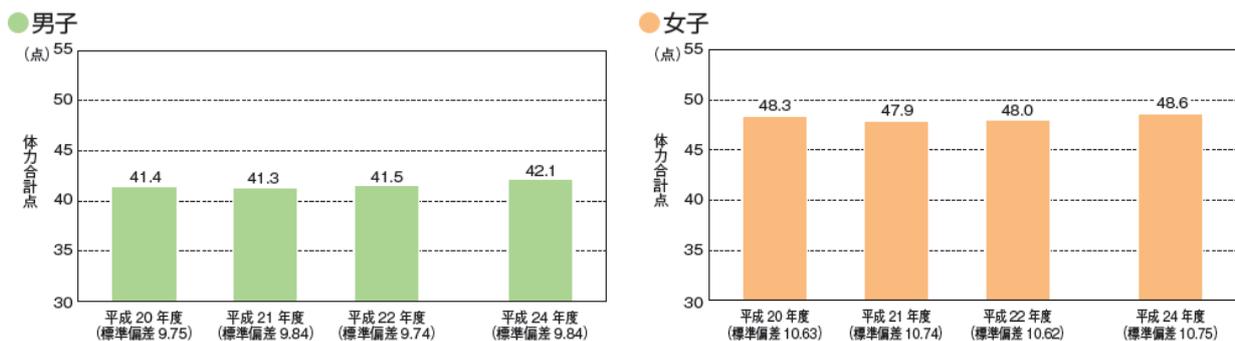
①体力合計点の推移 [報告書 54p・106p]

体力合計点は、小学校男女は、5年間でほとんど変化は見られなかった。中学校男女はともに、5年間で平成24年度が最も高かった。

【小学校】



【中学校】



②都道府県別の状況

都道府県別の体力合計点の状況は、中学校は過半数の地域が平成20年度と比較して上昇した。

都道府県別平成20～24年度の体力合計点の推移

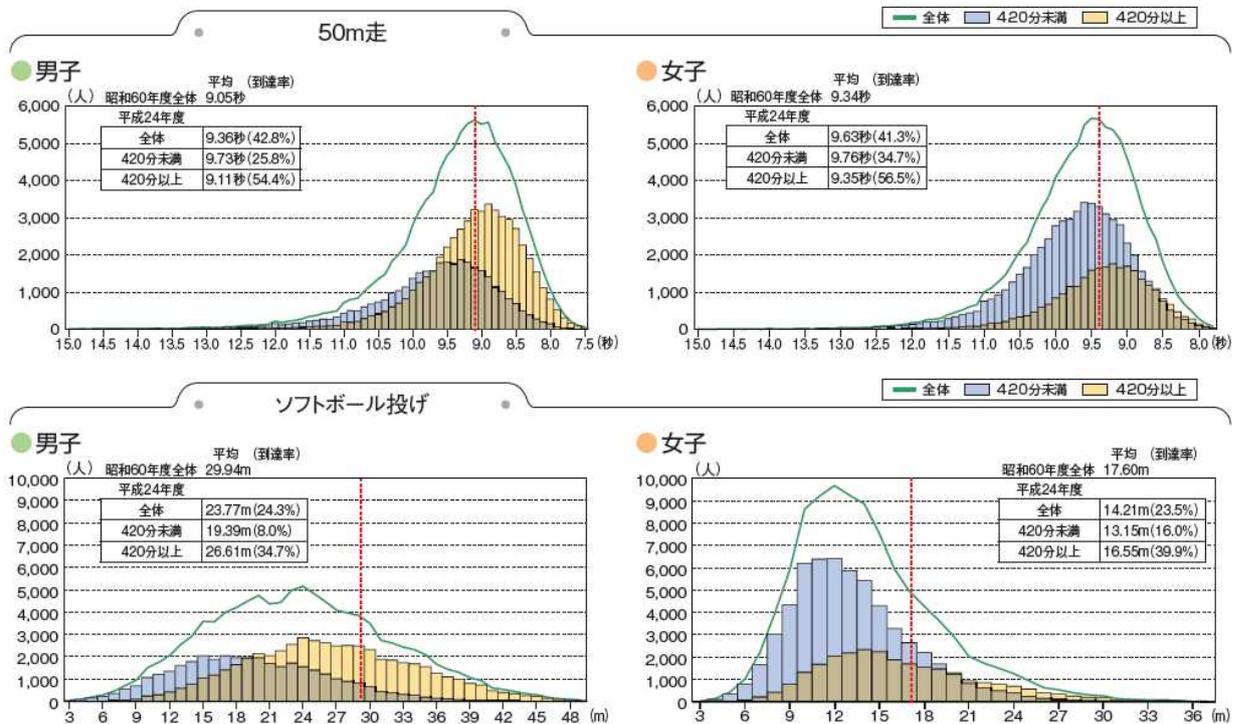
※表内の数値は都道府県数

体力合計点の推移 (H24-H20)		小学校		中学校	
		男子	女子	男子	女子
向上	向上 ※平成20年度と比較して平成24年度が向上	17	20	40	31
	1点以上向上(向上の内数) ※平成20年度と比較して1点以上向上	4	4	20	14
低下	低下 ※平成20年度と比較して平成24年度が低下	30	27	7	16
	1点以上低下(低下の内数) ※平成20年度と比較して1点以上低下	1	3	0	1

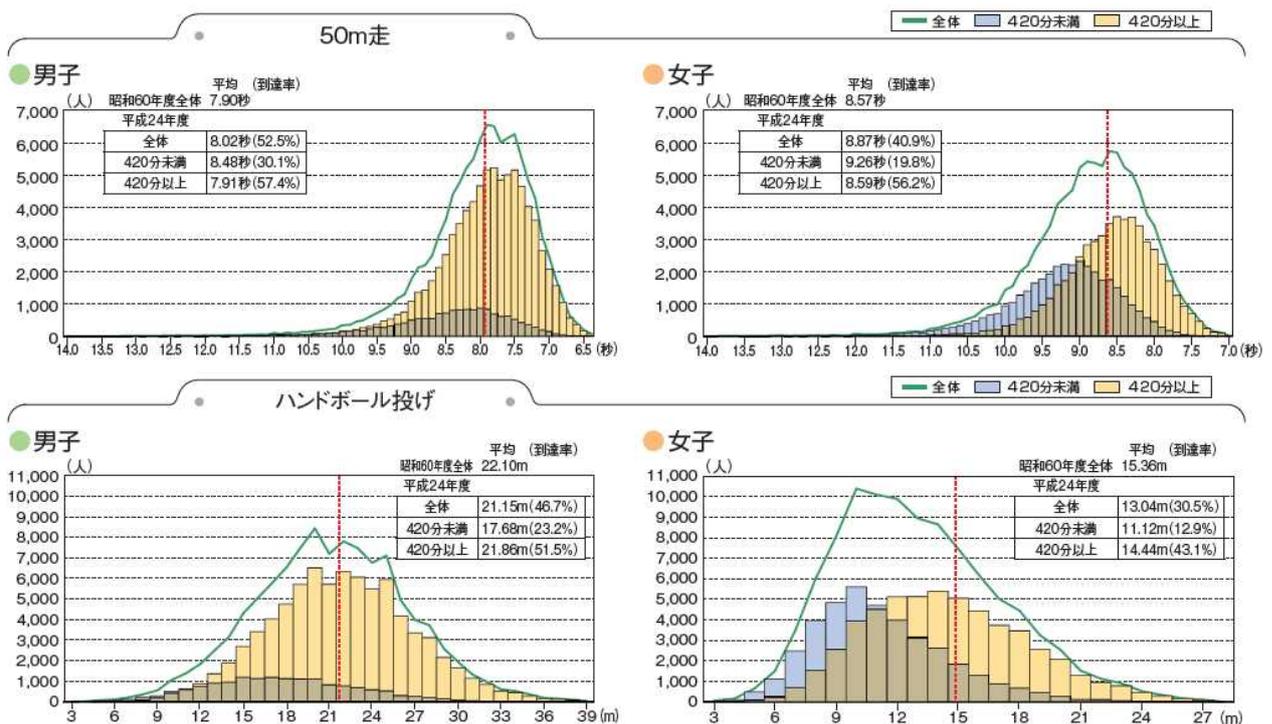
③ 1週間の総運動時間からみた昭和60年度水準の到達率 [報告書 45p-97p]

昭和60年度と比較可能な種目すべてにおいて、男女とも、1週間の総運動時間が420分以上の児童生徒は420分未満の児童生徒に比べて、昭和60年度水準到達率（各種目の昭和60年度平均値に到達した児童生徒の割合）が高かった。

【小学校】 ※グラフ中の縦の赤の点線は昭和60年度の平均値、表中の到達率は昭和60年度水準到達率



【中学校】 ※グラフ中の縦の赤の点線は昭和60年度の平均値、表中の到達率は昭和60年度水準到達率



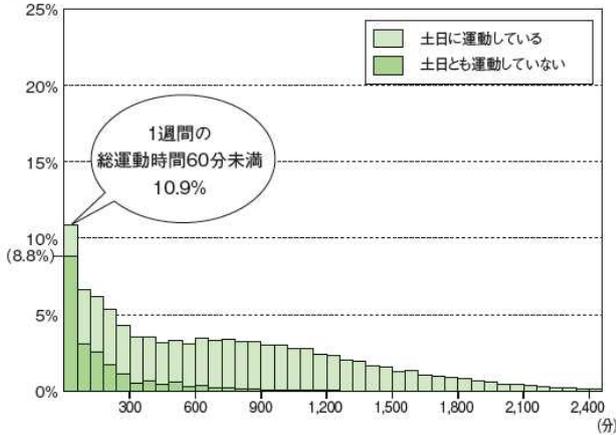
(2) 運動習慣、生活習慣

① 1週間の総運動時間の分布 [報告書 44p・96p]

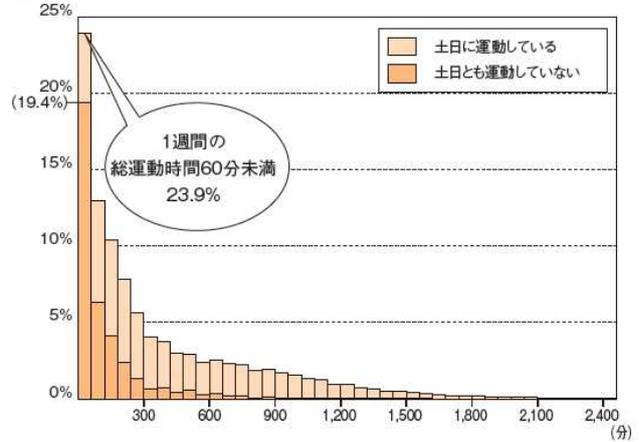
1週間の総運動時間では、中学校で運動する生徒としない生徒の二極化がみられた。女子については、小学生で 23.9%、中学生で 30.9%の児童生徒が1週間の総運動時間が60分未満であった。

【小学校】

● 男子

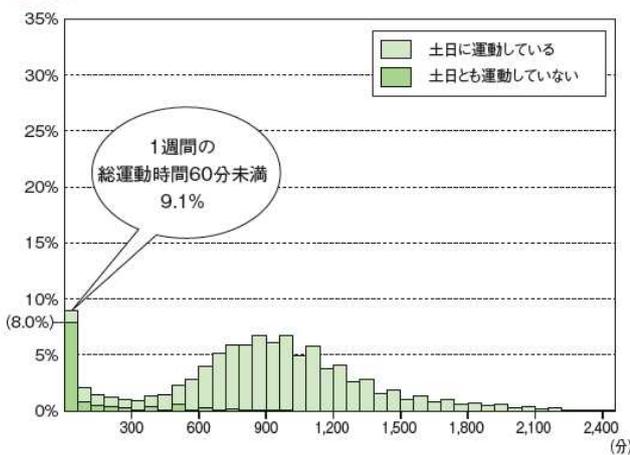


● 女子

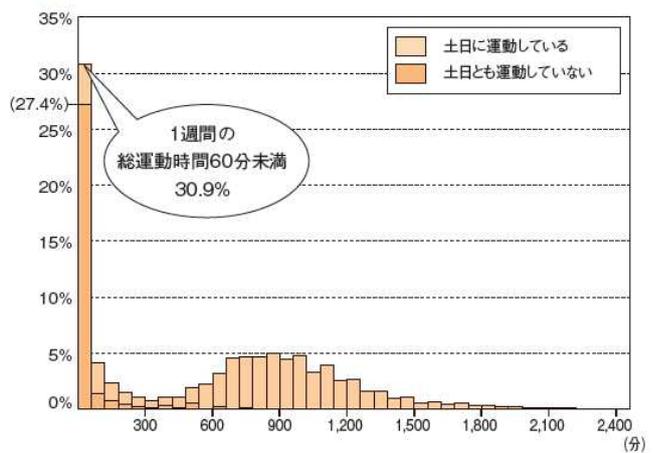


【中学校】

● 男子



● 女子

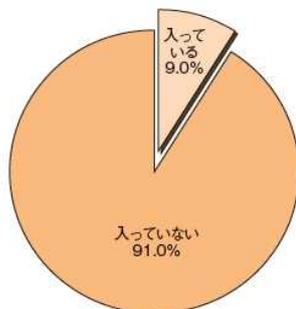


② 1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の特徴 [報告書 46p・47p・98p・99p]

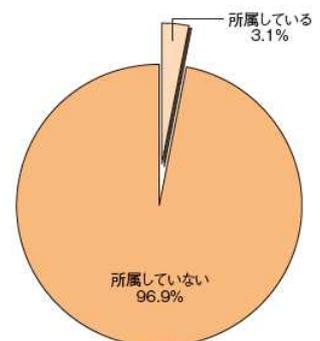
1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒は、運動部や地域スポーツクラブに所属している割合が非常に少なく、「運動やスポーツは体力向上のために大切」、「食事や睡眠時間は体力向上につながる」と考える割合が低い。また、土・日曜日の運動実施状況が低い、などの傾向がみられた。

運動部や地域スポーツクラブの所属状況 (1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒)

【小学生女子】



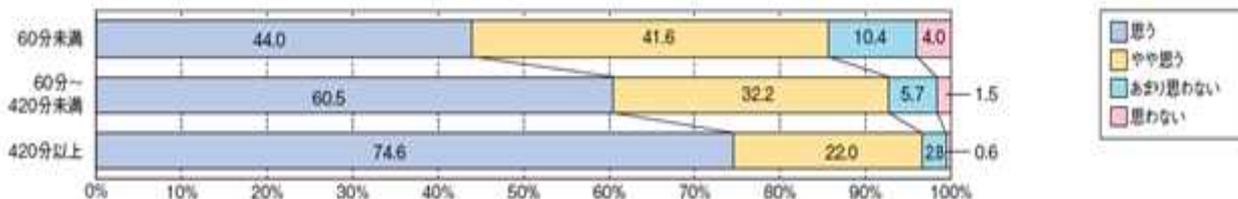
【中学生女子】



運動やスポーツは体力向上のために大切だと思う

【中学校女子】

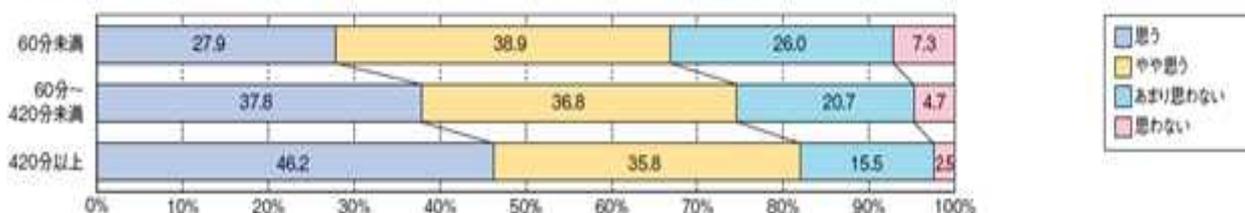
運動やスポーツは体力を向上するために大切だと思う



食事や睡眠時間の状況は体力の向上につながっていると思う

【中学校女子】

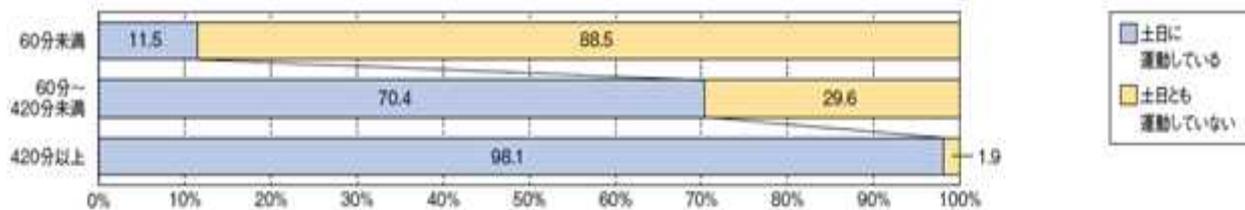
食事や睡眠時間の状況は体力の向上につながっていると思う



土・日曜日の運動実施状況

【中学校女子】

土曜日、日曜日の運動状況



2 運動やスポーツをしない理由の回答別にみた児童生徒の特徴

(1) 運動やスポーツをしない理由と回答別にみた児童生徒の特徴と体力合計点の関係 [報告書 48p・49p・100p・101p]

次ページの上部グラフは運動やスポーツを「ときたま」「しない」と答えた児童生徒の、運動やスポーツをしない理由についての回答を、選択肢ごと、回答比率別に並べたものである。また、下部表は、選択者数の多い回答の組合せ上位 20 位を、組合せごとの体力合計点の順に並べたものである。

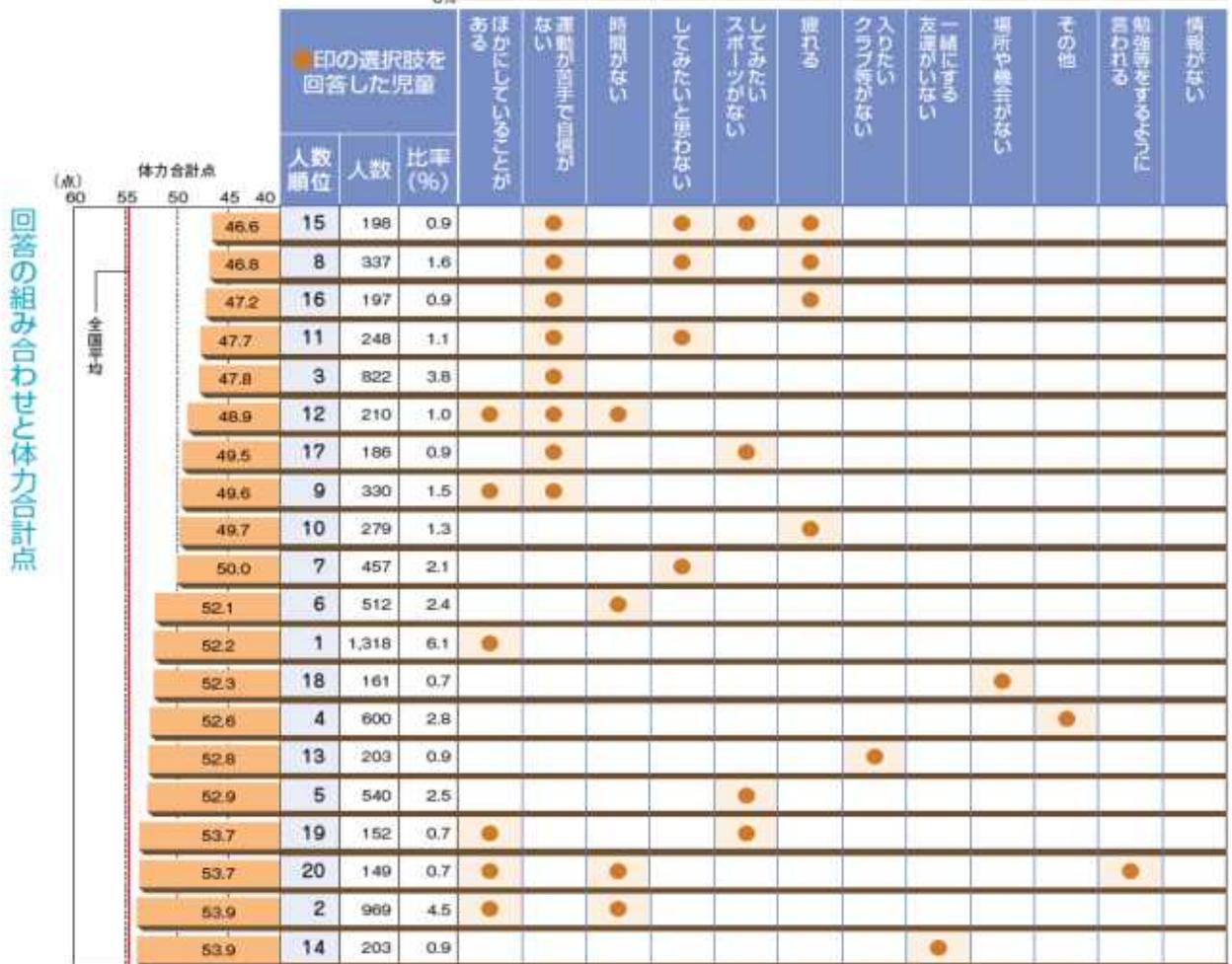
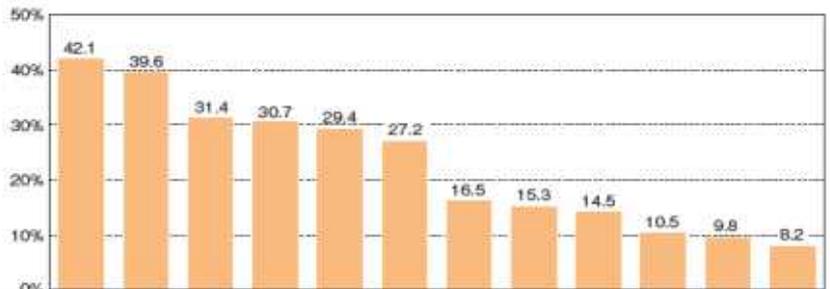
運動やスポーツをしない理由の回答比率及び回答の組合せと体力合計点（小学校）

運動やスポーツをしない児童が選択した回答の比率を比較すると、小学校男子は「運動が苦手で自信がない」が最も高く（31.5%）、次いで「疲れる」、「してみたいと思わない」の順であった。小学校女子は「ほかにしていることがある」が最も高く（42.1%）、次いで「運動が苦手で自信がない」、「時間がない」であった。

回答の組合せと体力の関係を見ると、選択者数の多い回答の組合せ上位 20 位では、体力平均点が全国平均を下回っていた。特に、「運動が苦手で自信がない」を理由にあげた児童の体力合計点は、低い傾向がうかがわれた。

【小学校女子】

運動やスポーツをしない理由の回答比率



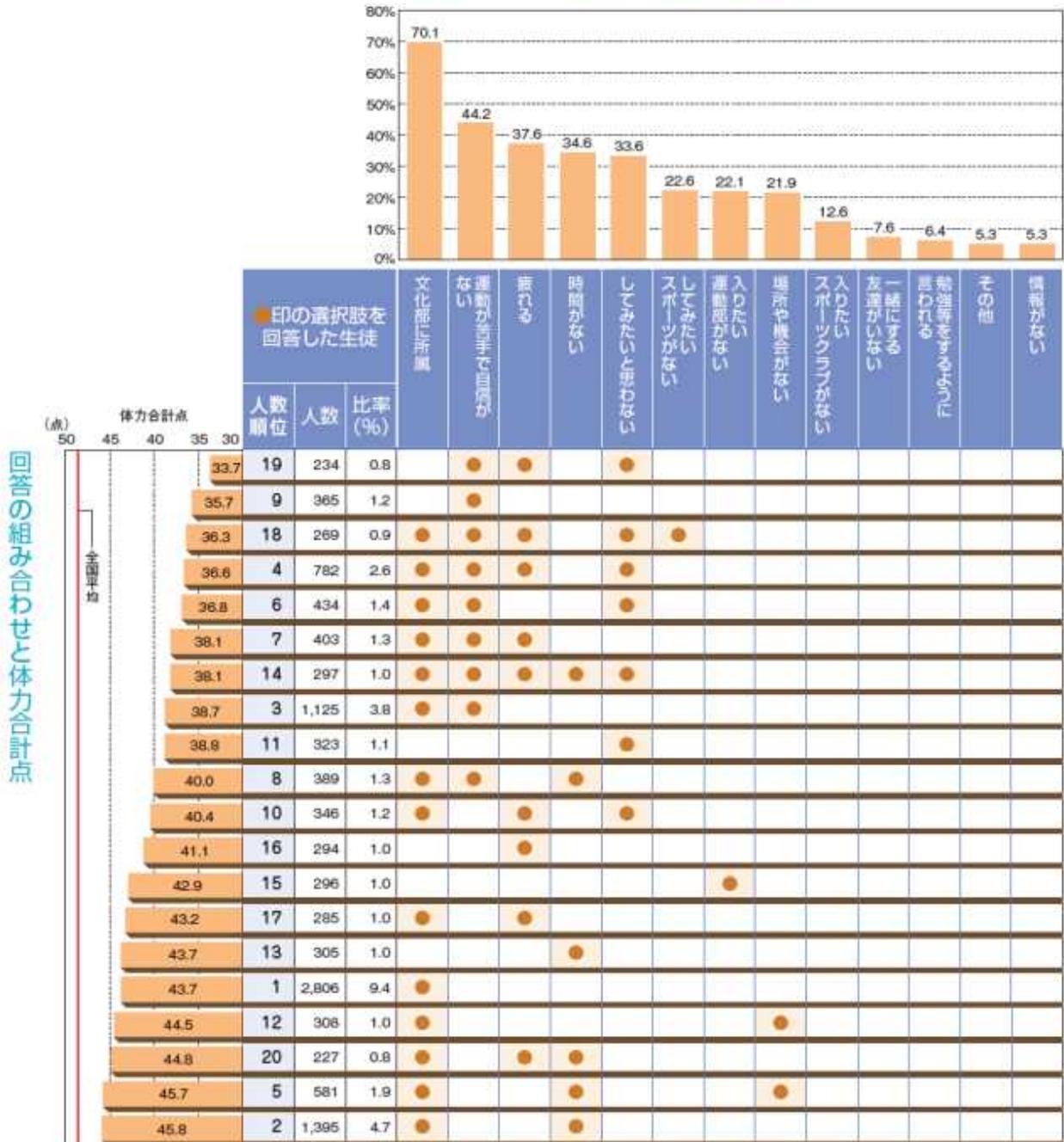
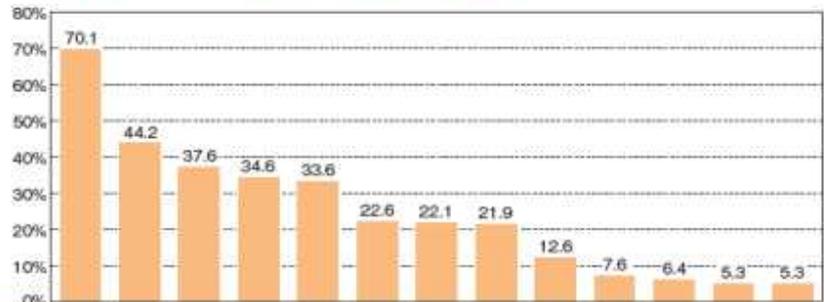
運動やスポーツをしない理由の回答比率及び回答の組合せと体力合計点（中学校）

中学校男子は「疲れる」が最も高く（40.4%）、次いで「文化部に所属」、「してみたと思わない」の順であった。中学校女子は「文化部に所属」が最も高く（70.1%）、次いで「運動が苦手で自信がない」、「疲れる」であった。

回答の組合せと体力の関係を見ると、小学校と同様に、選択者数の多い回答の組合せ上位 20 位では、体力合計点が全国平均を下回り、「運動が苦手で自信がない」を理由にあげた生徒の体力合計点は、低い傾向がうかがわれた。

【中学校女子】

運動やスポーツをしない理由の回答比率



(2) 運動やスポーツをしない理由と児童生徒及び学校における取組の特徴

[報告書 50p・51p・102p・103p]

1週間の総運動時間が60分以下の児童生徒が選択した回答の比率

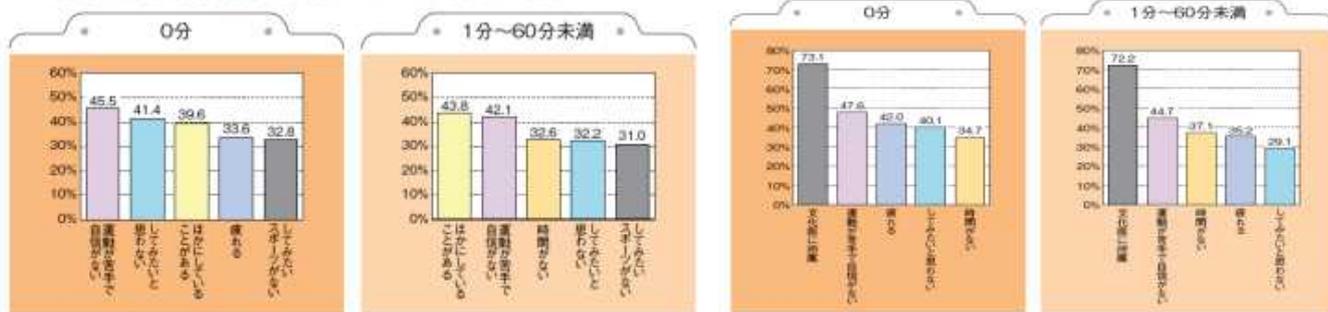
1週間の総運動時間別（0分、1～60分）の児童生徒の運動やスポーツをしない理由をみると、小学校女子では「運動が苦手で自信がない」、「してみたいと思わない」、「ほかにしていることがある」が上位であった。中学校女子では「文化部に所属」、「運動が苦手で自信がない」、「疲れる」が上位であった。

【小学校女子】

【中学校女子】

1週間の総運動時間別 運動やスポーツをしない理由

1週間の総運動時間別 運動やスポーツをしない理由



運動やスポーツをしない理由と学校の取組との関係

運動やスポーツをしない主な理由である「運動やスポーツが苦手で自信がないから」、「疲れるから」、「時間がないから」を選んだ生徒の割合が低い学校において、どのような体力向上の取組が行われているのかを探った。下記のような取組を複数実施している学校では、しない理由の割合が低下している結果が見られた。

【中学校女子】

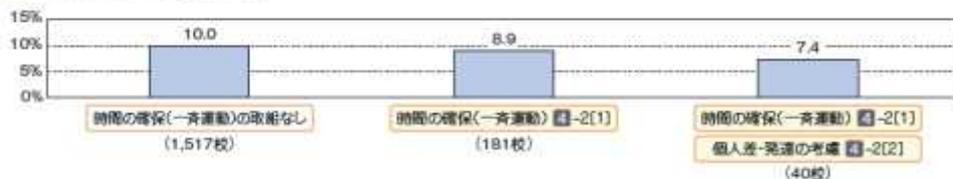
●運動やスポーツが苦手で自信がないから

「時間の確保(放課後等)」+「地域・家庭との連携」の取組をした学校で、「運動やスポーツが苦手で自信がないから」を選択した生徒の割合は、8.9%であった。



●疲れるから

「時間の確保(一斉運動)」+「個人差・発達の考慮」の取組をした学校で、「疲れるから」を選択した生徒の割合は、7.4%であった。



●時間がないから

「保健体育授業での取組」+「意欲関心を高める指導」+「運動部への参加促進」の取組をした学校で、「時間がないから」を選択した生徒の割合は、6.3%であった。



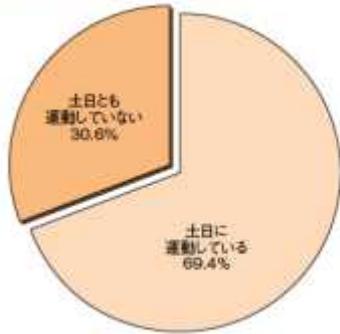
3 土曜日や日曜日に運動やスポーツをする児童生徒の特徴

土日の運動実施状況と体力合計点との関連 [報告書 52p・53p・102p・103p]

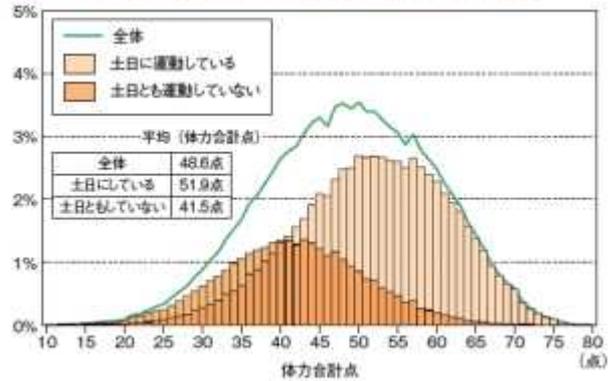
「土日に運動している」小学校の割合は男子が 80.5%、女子が 64.5%であり、中学校の割合は、男子が 88.7%、女子が 69.4%であった。「土日に運動している」児童生徒のほうが「土日に運動していない」児童生徒より、体力合計点が高かった。

【中学校女子】

土日の運動実施状況



土日の運動実施状況と体力合計点との関連



土日の運動実施状況と学校の取組との関連

「土日に運動している」生徒の割合と学校の体力向上の取組の関連について、どのような取組が行われている学校が、その割合が高いかを探った。「地域・家庭との連携」+「地域連携(運動の機会)」+「個人差・発達を考慮」+「保護者への働きかけ」をしている学校は、土日の運動実施の割合が 94.0%、また、「時間の確保(放課後等)」+「体育的行事の実施」+「運動部への参加促進」+「全国体力調査の活用」の取組をしている学校は 89.1%であり、取り組んでいない学校と比較すると、下記のような複数の体力向上の取組を実施した学校では、「土日に運動している」生徒の割合が非常に高かった。

【中学校女子】

土日の運動実施状況と学校の取組との関連

※「決定木分析」という手法を用いて、学校の体力向上の取組と、「土日に運動している」生徒の割合との関連を示したものである。

